

顔の見える商売で、安全安心なまちづくりに貢献したい。

(山口県岩国市)

岩国市中通商店街振興組合 理事長 **松川 卓司**



プロフィール
1958年山口県生まれ。大学卒業後、大阪市内の呉服屋に勤務。1986年に岩国市に戻り、家業を継ぐ。2010年より岩国市中通商店街振興組合理事長、2012年より岩国駅前を活性化する会長を務める。

Q 商店街活性化が全国的な課題となる中、岩国市中通商店街のイベント「軽トラ新鮮組！」が注目を集めていますね。

松川：「軽トラ新鮮組！」は、朝採ったばかりの新鮮な野菜などを軽トラックに積み、その車ごと商店街の中にとめて、生産者の方が直接お客さまに販売するイベントです。毎月第3日曜日に実施し、開始から3年が経過しました。現在では全国から視察に来られています。

これは元々、岩国市北部、錦川と小瀬川の中流域である山代地区の商工会から、山代の美しい山里と岩国の市街地で何か面白いことができなかと提案されたものでした。やましろ商工会が農家の方に声をかけた当初は、「売れんじやろう」と懐疑的な方もいらしたようです。しかし、商店街で実際にまちの人と触れ合ううちに、「この野菜はいまが旬ですよ」「こういう風に食べたらおいしいですよ」というコミュニケーションが生まれるようになり、いまでは地元の野菜を使った料理教室なども行われています。

もう一つ、好評を得たイベントに「酒祭」があります。岩国の銘酒「瀬祭」「五橋」「金冠黒松」「雁木」「金雀」の蔵元の協力のもと、試飲と販売を行うものです。広島西条で行われている酒まつりにヒントを得て昨年初めて実施し、非常に評判が良かったです。イベントでせっかく地

酒を用意するなら料理も地元のものをとということで、商店街近くの料亭に地元の食材を使った料理を作ってもらったところ、すぐに完売しました。来訪者は地元の方がほとんどでしたが、商店街は岩国駅からも近いので、公共交通機関を使って市外から来ることも可能です。多くの方に来

ていただく方法を模索したいですね。今年も3月に実施します。

Q イベントの実施によって、商店街への波及効果はありますか。

松川：イベントによって商店街を知ってもらい、定期的に来てもらうきっかけにはなりますが、各商店の売り上げに直接影響することは少ないと思います。しかし、消費者がまちや商店に何を求めているかを販売者が知る良い機会になっていると実感しています。

「軽トラ新鮮組！」を通じて見えてきたのは、顔の見える商売の重要性です。量販店のように、商品を多数陳列し、その中から選んでもらうというのも一つの商売ですが、商店街のような小さな組織で同じ商売をすることは難しいです。食の安全安心がより重視される中、商品を通じた生産者と消費者のつながりで大手流通企業との違いを生み出すことが、商店街活性化の一つの切り口ではないかと考えています。

また、地元に住んでいても、地元の食材や料理を意外と知らない方も多いようです。商売人のそもそもの役割は、地元の美味しい食材や名物、文化などをお客さまに紹介し、提案すること。一つ一つの商品をきちんと説明できる販売者がいることで、商売は成り立つものです。イベントを通じて、商売の原点が見えてきた気がします。

Q 岩国錦帯橋空港の開港によって、今後岩国を訪れる人が増えそうです。

松川：岩国市全体で見れば、観光客の増加で交流人口が増えることは大切です。一方、地元の商店街からすると、多くの人に岩国の良さを知ってもらうことで、定住人口の増加につながるが一番ですね。

人口という点では、後継者問題は商店街だけではなく、どこも深刻です。子どもや孫世代が東京や大阪に移住し、そのまま帰ってこないケースはよく見受けられます。しかし、先日山口市の商店街の方とお話ししたところ、同市では2代目や3代目が地元に戻ってくることもあとと聞ききました。何百年と続いたまちのプライドでしょうか、帰ってきたいと思わせる地元の良さがあるのだと思います。岩国の市街地も戦後にできてから半世紀以上が経過しました。地域愛を育める、魅力ある場所にすることが重要です。

Q 少子高齢化によって市街地の住まい方も変化しそうです。

松川：高齢者の一人暮らしが増え、利便性から都市部に移り住むことも多いようです。実際、市街地に高齢者福祉住宅は増えています。体に優しい食事を提供し、少量の量り売りを行うなど、高齢者の生活に寄り添ったサービスを商店街で行うことも考えられます。

岩国市中通商店街では、安全安心のまちづくりの視点から、まちのパトロールを定期的に行っています。交通面においても、子どもや高齢者の暮らしやすさを考慮すれば、市街地でもパークアンドライドのような発想が必要かもしれません。

結局のところ、商店街はまちの一部であり、それ単体で活性化を考えることは難しいです。住みやすいまち、魅力的なまちはどのようなものか。その全体像があつてこそ、まちの一部として商店街は機能すると思えます。

インタビュー・構成：
城市奈那（株式会社ジェイクリエイト）